

梅毒の発生動向と予防について

梅毒の原因と感染経路

梅毒は、梅毒トレポネーマ (*Treponema pallidum*) という病原体による細菌感染症で、主に感染者との性的接触（皮膚や粘膜との接触）により感染することから、性感染症の一つに挙げられます。

症状と治療

感染した後、治療せずにいると、経過した期間によって以下の症状が現れます。

(1) I期顕性梅毒

感染して約3週間後に感染部位にしこりができたり、股の付け根（そけい部）のリンパ節が腫れることがあります。無治療でも症状は軽快します。

(2) II期顕性梅毒

感染して数ヶ月後、潜伏期を経て、全身にうっすらと赤い発疹が出現することがあります。無治療でも症状は軽快します。

(3) 晩期顕性梅毒

感染して数年後、皮膚や筋肉、骨などにゴムのような腫瘍ができたり、心臓、血管、脳などの複数の臓器に病変が生じ、場合によっては死に至ることもあります。

また、妊娠中に梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児に感染することもあります（先天梅毒）。治療は、抗菌薬の投与が主で、早期に治療を行えば、完治も可能です。

沖縄県の発生動向(2006年～2016年10月2日時点)

本県では2011年以降、報告数が増加傾向にあり、今年（2016年）は、現時点で既に25例と昨年の17例を超えています。性別では、男性が多数を占めていますが、女性の報告数も2015年以降、増えつつあります。（図1）

年代別では、20代から40代にかけて多く、全報告数の76%を占めています。（次ページ表1）

また、感染経路別では性的接触（同性間）による感染が145例中63例（43%）と最も多くみられます。女性では今年に入り、性的接触（異性間）による感染が増えています。（次ページ図2）

予防と対策

不特定多数との性交渉を控える、コンドームを使用するなど梅毒の感染予防に努めましょう。

梅毒は、無治療でも一旦症状が治まることから、診断や治療が遅れたり、感染を拡散させてしまう恐れがあります。皮膚や粘膜等に異常があれば、早めに医療機関に受診しましょう。

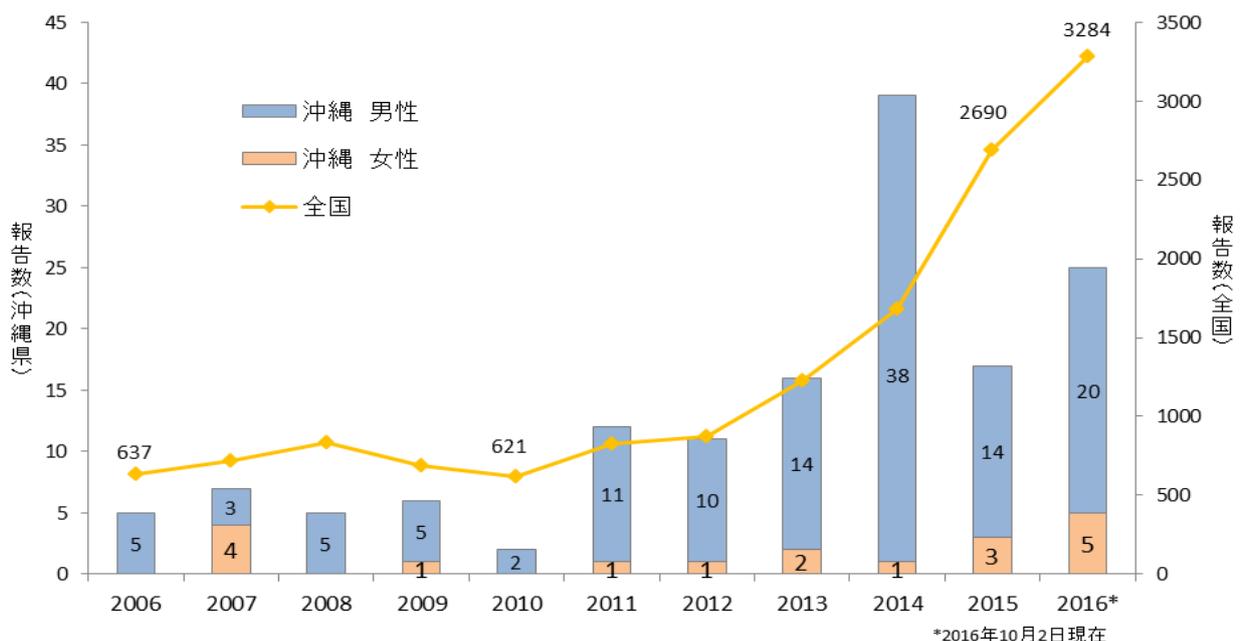


図1. 梅毒の年別報告数の推移 (2006-2016年)

また、感染した場合、性交渉のパートナーも、必要に応じて検査・治療を行うことも重要です。

なお、県内保健所では、匿名・無料で梅毒の検査を受けることも可能です。

検査日や予約方法などは、事前にお問い合わせ下さい。(お問い合わせ先は表2)

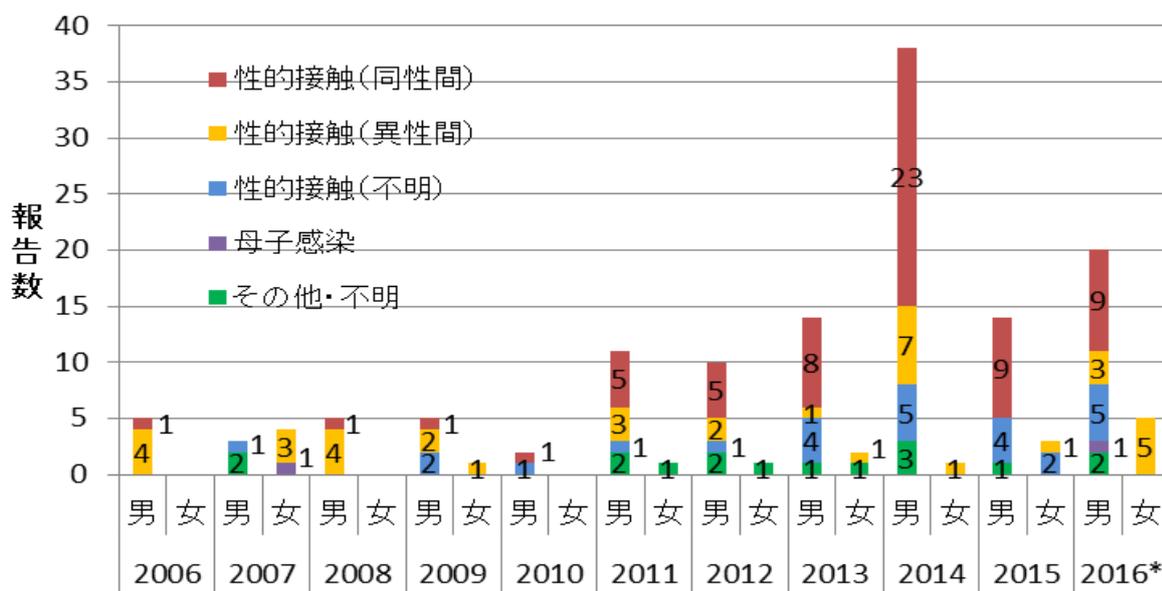
【企画管理班】

表1. 梅毒の年代別報告数 (2006-2016年)

年代	報告数	割合(%)
0-9歳	2	1
10-19歳	3	2
20-29歳	34	23
30-39歳	43	30
40-49歳	33	23
50-59歳	14	10
60-70歳	10	7
70歳以上	6	4
総計	145	100

表2. 匿名・無料で検査できる機関(保健所)一覧

検査機関名	電話番号
北部保健所	0980-52-5219
中部保健所	098-938-9701
南部保健所	098-889-6591
宮古保健所	0980-73-5074
八重山保健所	0980-82-4891
那覇市保健所	098-853-7971



*2016年10月2日現在

図2. 梅毒の性別・感染経路別の年次推移 (2006-2016年)